

竹富島に住みついた若者たち

1. 竹富島には、どんな人が住んでいるの？



やってみよう『下の表を見て何がわかるかな？』

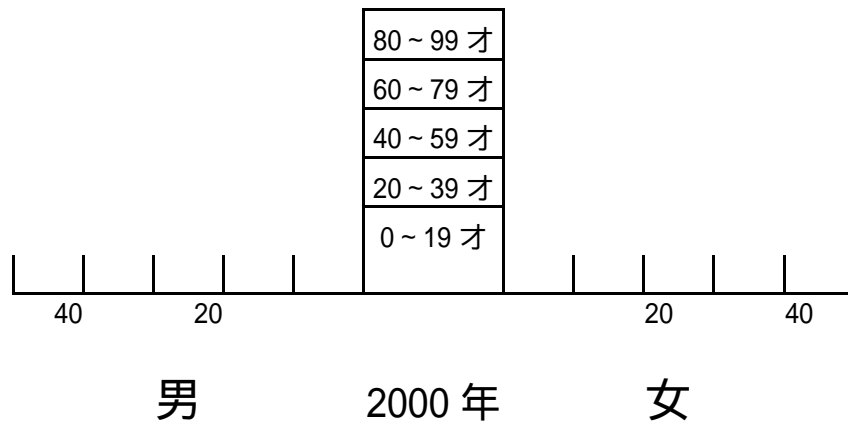
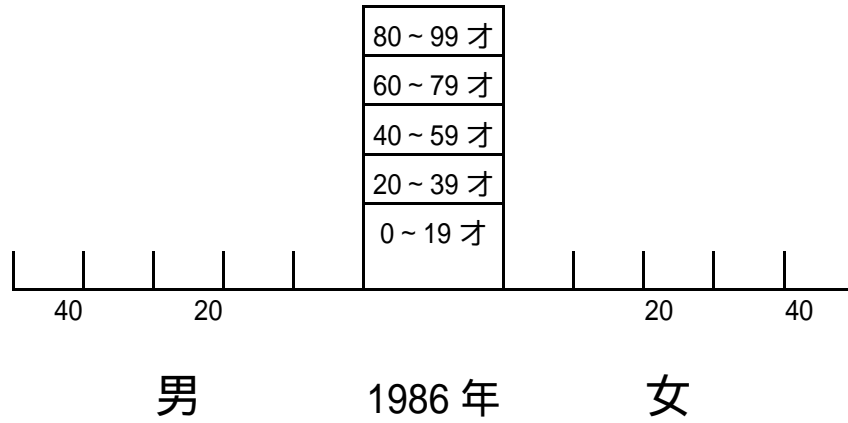
(1) 下の表1、表2を見て男女別棒グラフをそれぞれ書いてみよう。

	男	女
0～19才	26人	27人
20～39才	26人	25人
40～59才	41人	40人
60～79才	35人	47人
80～99才	13人	28人
計	141人	167人

表1 1986年竹富島住民年れい層表

	男	女
0～19才	25人	25人
20～39才	33人	32人
40～59才	30人	33人
60～79才	38人	46人
80～99才	21人	16人
計	137人	152人

表2 2000年竹富島住民年れい層表



考えてみよう

- (1) グラフ1、グラフ2を見て、どの年れいの人が多いだろう。
 ()

2 . 竹富島の人たちは、どんなことをして生活しているだろう。



(高瀬谷・外間 1996 年撮影)

今から 30 年ほど前は、竹富島は農業を中心にして生活をしてきた。しかし、かんばつなどで農業をやめて観光客を相手に商売する人や民宿をする人、島を出ていく人が多くなった。その中でも、特に若者が島をはなれることが多かった。

このような中、竹富島のよい気候の条件を利用して昭和 59 年竹富島にあたらしい産業としてエビの養殖が始まった。そこでは、13 名のはたらく人がいるがそのほとんどが、20 ~ 30 歳代の若者たちである。この若者たちは、この竹富島で生活しながらはたらいっている。やがて、この人たちは竹富島で結婚するようになり、島で生活する人がだんだんふえてきた。

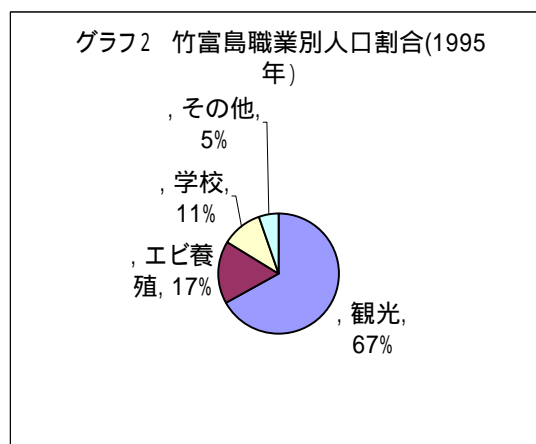
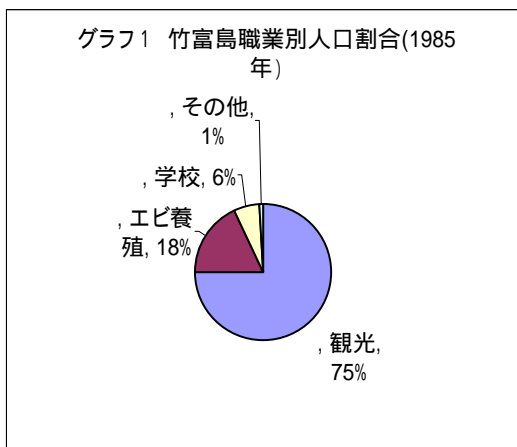


表3 竹富小中学校児童生徒数の変化

	1986年	1999年
小学校の児童数	15人	12人
中学校の生徒数	14人	17人



考えてみよう

- (1) あなたの家族はどのような仕事をしていますか。
()
- (2) グラフ2でグラフ1とくらべて大きくふえているのは何か。
()
- (3) グラフ2でグラフ1とくらべて大きくへっているのは何か。
()

エビ養殖場の社長さんが次のような話をしてくれました。

『竹富島の産業のうち農業やちく産業やようさん業は、あまりもうからなくてこまっていたんだよ。そこで、竹富島のよい気候を利用したエビ養殖に私が目をつけたんだよ。私は、若者をやとっていいね。よくはたらいってくれるんだよ。そして、祭などの島の行事を手伝ってくれてとても助かっているよ。島に若者がふえると島にも活気がでてうれしいよ。』

竹富島にはね、いろいろな伝統行事や工芸品などがたくさんあって、島の人たちがとても大切に、そして誇りに思っているんだよ。若者がふえることでね、竹富島の伝統行事や工芸品を受けつぐことができ、とてもいいことだと私は思うんだ。これからも竹富島に若者がふえていってほしいな。』

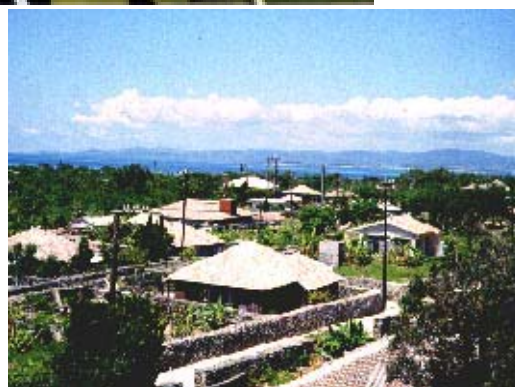
3 . 伝統文化の島－竹富島

竹富島の人々は、『売らない』『こわさない』『よごさない』『乱さない』『生かす』という竹富島憲章を自分たちで作り、島の歴史、文化、自然にほこりをもちながら大切にしています。

1977年に、竹富島最大の行事である『種子取祭』が国の無形文化財に指定されました。

また、1987年には島の人びとの努力がみのって、沖縄県で初めて「まちなみ保存地区」(重要伝統的建造物群保存地区)に選ばれ、竹富島の赤がわらのまちなみは全国でもよく知られるようになりました。

そして、1996年には竹富島島民や竹富島出身者などの手によって『全国竹富島文化協会』がつくられ、竹富島の伝統文化や工芸品をみんなで守っていこうとがんばっています。



あきら君とつとむ君とゆう子さん自分たちの将来について話していました。

あきら：「竹富島には、いろいろな伝統文化や工芸品があるんだね。」

ゆう子：「そうだね。」

ゆう子：「昔は、それを受けつぐ人が少なくて困っていたみたいなんだけど、今は少し若い人がふえてきて伝統文化を受けついでくれる人がいるんだよ。」

あきら：「ぼくは、大きくなってもこの島にいてずっと踊りをやっていきたいな。」

ゆう子：「わたしも。でも、踊りを覚えるのってたいへんだよね。」

あきら：「いいや、おもしろいよ。特に、『種子取祭』はね。神様に踊りをほうのうするんだよ。なんて言ったらいいんだろう。神様といっしょに遊んでいるという気がするのが竹富の祭りの特徴だね。」

ゆう子：「そういえば、わたしの姉さんも石垣やなはなどに踊りに行っているよ。姉さんは、言っていたよ。『お客さんが、とても喜んでくれるし、自分もとても楽しいよ』と。」

つとむ：「でも、ぼくは自分の夢を実現したいな。東京に行ってパイロットになりたいんだ。」

あきら：「そうしたら、だれが伝統文化を守るんだよ。」

つとむ：「うーん。でも……。パイロットになりたいし……。」

ゆう子：「わたしの家のとなりの山口さんは東京から来た人で、いっしょうけんめい踊りを覚えているよ。」

あきら：「みんなで、守っていこうよ。」



考えてみよう

(1) 『種子取祭』の「種子」とは、何の種子？

()

(2) あなたは、3人の中でだれの意見に賛成しますか。

()

(3) 賛成した理由を書いてみよう。

あきらくんとゆう子さんとつとむくんは、あきらくんのおばあちゃんに『種子取祭』について聞いてみることにしました。

40年前、竹富島は人口1000人ほどで長寿の人が多しな島だったんだよ。そして、78も拜む所があり、6つの山があり、神司(つかさ)も6人もいて信仰の深い島でもあったんだよ。

また、島には石が多く、水田はほとんどない。そこで、西表島に小舟で通い、田をつくっていたんだよ。竹富島では、大豆、さとうきび、麦、あわ、あずきなどがとれていたんだよ。

でもね、水田のほとんどない島に、どうしてこのような『種子取祭』のような豊作をいのる祭りが盛大なのかというね。『種子取祭』は、豊作をいのり、感謝するが、同時に、それによって島の人たちの健康と長寿や竹富島で平和にらせるように願っているんだよ。だから、私たちは竹富島の伝統文化などを守っていきたいんだよ。



考えてみよう

3人の話とあきらくんのおばあちゃんの話をして聞いて、あなたが考えたことを書いて見よう。